

第1回 ESDアクションプラン策定のためのトークセッション

令和3年2月13日(土) 14:00~17:00

まなびとESDステーション及びZOOMにて

ファシリテーター：大久保 大助氏

参加者：20人

- 1 トークセッションの流れの説明
 - ・次期アクションプランの点検
 - ・実行のためのプラン=現場(実行する人)に添ったプラン
 - ・批判⇔建設、会場⇔ZOOM
 - ・進め方 積み上げ式 1~4章 確認 10章(すること)
 - ・方針 「批判的に見て建設的に考える」厳しく!どうすればできるか?
 - ・「絵にかいた餅」にしない

音響システム
不具合により
講師説明が
ZOOM参加者
に十分に伝わ
らなかった

2 アクションプラン素案の確認(1章、2、4章:ダイジェストで説明)

※資料の素案をご確認ください

1章 はじめに

- ・ESD 持続可能な開発のための教育
- ・人類の開発活動⇒社会問題(気候変動、生物多様性、貧困など)
- ・「問題」主体的にとらえる⇒身近なところから取り組む
- ・価値観・行動の変容⇒持続可能な社会の実現
- ・問題解決←取り組み←考え・行動 ESD(持続可能な開発のための教育)
- ・北九州市では・・・1901年八幡製鐵所創業、1960~1970年代 公害
- ・市民運動⇔協働(市民・企業・大学・行政等)
- ・公害克服=北九州ESDの原点
- ・2006年 ESD協議会発足 RCE:ESDを推進する地域拠点
- ・ステークホルダーの連携/市民主導/現代社会に応じた取組
- ・未来を拓く⇒(行動・変容)⇒未来をつくる

2章 取り巻く状況の変化

- ・2015 SDGs 持続可能な開発目標
- ・SDG4.7 すべての人に包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- ・ESD 持続可能な社会の創り手=「学びに向かう力、人間性等」課題解決を図る人材育成
- ・ESD SDGsゴール達成の不可欠な実施手段
- ・まなびとESDステーション 活動(協働の拡大、5つのプロジェクト)
- ・事務局 専属コーディネーター⇔(地域・会員)つなぐ
- ・新型コロナウイルス感染症→社会課題顕著化/ICTの活用/地域・国境を越えた交流

4章 これまでの成果と課題

- 普及・啓発・発信

(成果)

- ・出前講座（市民センターなど）→ESD 活動の地域への普及 直接の学び・効果大
- ・表彰制度（北九州未来都市 SDGs アワード）→活動の「見える化」既存活動の掘り起こし

- ・韓国 RCE との継続的交流⇒特徴的事業 10年以上続く

(課題)

- ・ESD の理解 →学び・活動ー学びの機会×、視点の追加× ESD 「分かりにくさ」「難しさ」
- ・協働・連携 →他の会員の活動内容が分からない、十分な交流ができていない
- ・ESD の認知度 →ESD と SDGs の理解 周知（言葉+目的・取り組み）

- ステークホルダー別の取り組み 「地域ネットワーク」

(成果)

- ・ESD 推進事業→市民センター等事業×ESD 視点/ESD コーディネーター養成

(課題)

- ・視点の広がり→更なる巻き込み・広がり
- ・高齢化→次世代の育成・交流

- ステークホルダー別の取り組み 「多様な教育の場」

(成果)

- ・まなびと講座（市内10大学連携）→協議会ー大学⇒サブコーディネーターの活躍
- ・国際会議での発表⇒経験⇒国際的な ESD 視点

(課題)

- ・小中学校との連携 事業化×
- ・ユースの活動⇒新たな連携⇒次世代の育成

- ステークホルダー別の取り組み 「企業」

(成果)

- ・市内環境関連企業⇒研修
- ・北九州 SDGs アワード⇒企業部門⇒理解・行動力促進

(課題)

- ・SDGs と E S D
- ・位置づけ・明確化⇒巻き込み・連携
- ・ユース会員⇒就職定住⇒活躍の機会

- ステークホルダー別の取り組み 「行政」

(成果)

- ・市職員←E S D研修⇒施策に SDGs 達成に向けた視点⇒北九州市 SDGs 未来都市計画

(課題)

- ・行政組織での E S D 実践不足

・行政職員への ESD・SDGs の意味・背景の研修が必要

● 推進体制・事務局

(成果)

・専属コーディネーター設置⇒会員・地域つなぐ⇒活動アップ⇒持続可能な社会づくり

・RCE⇒ESD推進の実践拠点(韓国RCEとの交流/九州地方活動センター)

(課題)

・会員とのコミュニケーション不十分⇒(会員の主体的な活動+会員間のネットワーク)必要

・プロジェクトの枠組み⇒拡がりに限界⇒新たな枠組み検討

・拠点のあり方⇒社会情勢⇒拠点の意義の変化

3 グループセッション

10-1 章 具体的に取る組む事項

会員による自主的な取り組みの推進

(1) 4つのグループに分かれて、素案について「批判的視点」でグループセッション→共有

- 今のプロジェクトと名前・役割→見えてこない⇒洗い出しが必要・名前など統一感
- 新たなチーム→既存のプログラム→今までのタスクがこなせるのか
- 広報がない!→事務局が担うのか?
- (やりたいプロジェクト・やらなければならないプロジェクト)がある
- プロジェクト→戦略が必要・手上げだけでない
- プロジェクト⇔チーム 移行?解体?並行?役割など明確さが無い・もやっとする
- 新しいチーム ・メンバー構成(公平性)・成果物のフィードバック 取り扱い
・マンネリ化防止・チーム認証の条件
- 市民センターでの活動 チームマッチングしてほしい
市民センターがやっている活動・設備→協議会把握・理解する
- 自主的な取り組み 企画で採用 →運営委員会がどこまで精査できるのか
- SDGs 17ゴールとの対応 →1つだけ選べない
- プロジェクト→解体するのか?

(実績) 新たに手をあげて新たな人を巻き込む 新しい形をつくる

- 市民センターでの ESD・SDGs の素晴らしい取り組み
関連性(活動、計画、ゴール)→示す
- 分野を超えた連携・協働 コーディネーション(評価 振り返り)⇒活動評価
- 交流⇒ただ知り合うだけでなく異なる視点の獲得
- 語る「私」になる→活動者であること
- 行動⇒変容 どのように変容していくか見ていく(評価)
- ESDは学び 活動を通じて何を学ぶか
- 自主性⇔プラン

(2) 4つのグループに分かれて、素案について「建設的視点」でグループセッション→共有

- ESDとSDGsの関連性(9章)

行政の部局別 説明が違う ESDとSDGsの関係性が理解されていない



整理して、アクションプランに目標+変容評価を記載すべき

ESDとSDGsの関連性→理解されていない 違い・対策

- 会員・活動内容と協議会が把握できていない 開示されていない
→自主的な活動につながらないのでは？

情報共有—各チームで（媒体）

- 誰が？するの？など具体的な部分を明記
- プロジェクト→チーム 期限・ルール・移行
- チーム=作り方のルールを明確に
- 乱立すると、ただの活動になってしまう
- 「ESDは教育」がわかるチームが必要
- 中間支援
相談支援/コーディネーション⇒より自主的な活動に
- P17の7行以下 活動内容「記載」→「例示」
取組の決め方 プロセス←ステークホルダーの役割
- めざす姿=会員が決める
- 運営委員会の見直し
中間層「若者」がない—広報・活動
- ユース：○○させるはダメ
ポストを作る←会議など決める場にいる
- 心配点：チーム制で協議会の重点項目の特徴が薄れないか？



明示

4 感想（学生）

- ・会議まで準備できていなかった→細かい所まで気づくことができた
- ・深く理解できていなかった→決めることのできる場所にいることができた
- ・自分にはない視点を得た
- ・コロナ禍で活動に一部しか参加できていない
- ・次世代・人材育成に力になれるかもしれない

1 トークセッションの流れの説明

- ・次期アクションプランの点検
- ・実行のためのプラン=現場(実行する人)に添ったプラン
- ・批判⇔建設
- ・方針 「批判的に見て建設的に考える」厳しく!どうすればできるか?
- ・「絵にかいた餅」にしない

2 第1回トークセッション振り返り

10-1章 具体的に取り組む事項

会員による自主的な取り組みの推進においてさまざま議論があったが、大きくまとめて、下記の2つの点について、問題提起があった

➤ ESDとSDGsの関連性

違いを理解して、対策が必要

ESDとは「学び」であり、そこに「活動」

自主的なものとして、プランを作り上げる必要がある

事業評価・・・異なる視点、変容

➤ 運営体制

【チームとプロジェクト】

したいことと、しなければならないことがある

チーム設立のルールやプロセスが必要

チームの採用はだれが、どのようにするのか精査が必要

【組織体制】

支援の役割が必要

運営委員会の見直し

3 議論

前回のトークセッションを振りかえって、上記の2点について、トークセッションを行った。

2つのポイントについて、3つのグループに分かれて、セッションを行い、それを全体で共有したあとに、別の3つのグループに分かれてグループセッションを行って、全体共有を行った(2つ目のポイントについては、時間の都合で、再度のセッションはできなかった)。

(1) ESDとSDGsの関連性

- SDGsは2030年までの目標

ESDは、概念・教育・学び・人材育成 →行動変容につながる事が重要
2030年以降も続くもの、不変性である

➤ **北九州への落とし込み方**

どこに重きを置いていくか

ESDを知っている人だけでなく、市民センターなどでESDと認識せずに活動している人たちに、ESDをわかりやすく**伝えていく**

グリーン成長都市として目標をそろえる

➤ 北九州住民に「みんなで 広げよう つながろう」の機運が高まる仕掛けが必要

➤ ESDは概念、SDGsはツール

➤ SDGsが具体的なものを示してESDもわかりやすくなった

➤ SDGsになくてESDにあるものとして、「**育てたい人**」の価値を明記

→言葉や説明内容、ツール

➤ SDGはフラッグがあったり、予算がついたりしているが、今後はSDGsとともにESDが併記されるような仕掛けを協議会として実施しては

➤ SDGsクラブとESD協議会との協働

➤ SDGs：目標、ESD：教育、共通するものは「持続可能な社会」であること

➤ 市民にどのように届けていくのか

ESDは人を育てるという点が重要、プランをどのように実現するか？

自分事としてとらえて行動する

➤ ESDは人材育成だが、それ以外にも多くの気づきがある

➤ ESDの認知度を高める

また、認知度を高める必要はないのではないかという意見もある

ESDは教育だから実践すればいいのではないかという意見もあった

◎2度目のグループセッションでは、1度目の問題を具体的にどのように進めていったらよいかを議論した

➤ **小・中学校どのように広げていくか？**

相手が必要としているものにカスタマイズして、ESDパッケージ、指導案、具体的プログラムを学校に届ける

これまで、学校へ浸透させることができなかった？

教育委員会がどのように引き入れてくれるか

教育委員会とESD協議会との連携が必要

誰に、どのように届けるかを想定

➤ **自分で考えて、自分でできるプログラム**が必要

➤ 子どもたちにESD・SDGsの言葉を理解させるのは難しい

体験を積んだあとからその目標・理念を伝えていく

➤ **きっかけが必要**

➤ **大学生**が広げていく、**プログラムを企画**、事業を組み立てて、継続的に小中学校に入っていく

➤ 教育にあまりこだわらないで、「**学び、考え、行動する**」ESDを普及

- ユース以上：多様性、どの部分でも学びになる
 学びの楽しさ、興味をもつ+パッション（情熱）= ESD
 情熱の高い人と学ぶ→つながる
- 出前講座：ESDの大切さが伝わりにくい→おもしろさの入口
相手に合わせてESDをつなげる
- コミュニケーション能力が必要
- 世界的な視点を獲得することで、利己的な視点から利他的な視点（ESDの望むこと）
- SDGsが広がっているので、それを利用してESDを普及する
- 学校のカリキュラムにはESDが必ずあるから、それを掘り起こしていく
 →活動の評価軸
- 学校へ、地域・活動者から一步入ってみる
- 学校へ情報・活動をつなぐパイプ役になる

(2) 運営体制について

- 予算について
 行政の予算は単年度ごとに決まるもの
 無限大にあるものではなく、今ある予算の中で考えていく必要がある
 チーム制（現段階では案の状態）：予算については現段階では確定できない
- たくさんありすぎたら、分かりにくい→わかりやすいチーム
- **若い人に入ってもらえる体制づくり**
- **既存のプロジェクトと活動を連携**
- アクションプランは5年なので、事務局体制・役所も5年継続してほしい
- プロジェクトとチーム制は併用したほうがいい
- 楽しく、戦略的に
- 事務局、プロジェクト、会員の役割分担が必要
- **既存のプロジェクト、地域などの活動の情報を交換会が事前に必要**
- ユース：活動情報や交流機会がない、積極的にユースが動いて実行
- 定期的な情報交換会実施（例：月1回とか）オンラインでも実施可能
- **ユースの在り方**：プロモート実習、協議会との関わり、～35歳までの大人
 ユースが北九州に定着してほしい、子育て世代と大学生の間を意識
ユースと思って自主的に活動している人たちもいる
- プロジェクトを活用して**魅力的な活動に参加する若者を増やす**
- 今までのステークホルダーとしてのユースが進まなかったか、分析が必要
 なかなか自主的参加が進まない
- 大人は協議会のなかでどう動けばいいのか分からなかった、話し合いもなかった
- 運営委員会の情報が分かりにくい
- 情報の見える化
- チーム制への助走期間必要
- 分かりにくい名前やめよう キラキラネームはわからない

- 運営委員会 メンバー変更、役割分担、選挙も？
- プロモート実習生：各プロジェクトに自主的に参加している

4 今後のスケジュールについて

～3月1日（月）	会員からの意見 募集
3月17日（水）	運営委員会
3月下旬～4月上旬	北九州ESD検討会
3月下旬～4月上旬	役員会
4月中旬～5月中旬	パブリックコメント募集
5月下旬	運営委員会
6月上旬	北九州ESD検討会
6月中旬	役員会
6月下旬	総会

10章-1

重点的に取り組む事項

● 会員による自主的な
取り組みの推進

今年4-6月以前

役割を分担していく

⇒ 統一感 醸成

新たな4-6月

既存のプロジェクト

広報がよい!
事務局

（新たなプロジェクト
やりますねえなプロジェクト）

批判的視点 ↓ 共有
建設的視点 ↓ 共有

方向性

プロジェクト-戦略

年単位でやる

既存のプロジェクト

⇒ 2023年以降...

プロジェクト

4-6月

⇒ 2023年以降...

⇒ 2023年以降...

⇒ 2023年以降...

⇒ 2023年以降...

⇒ 2023年以降...

⇒ 2023年以降...

⇒ 2023年以降...

⇒ 2023年以降...

⇒ 2023年以降...

① プロジェクトの活動
評価とモチベーション

プロジェクトの活動
設備

協賛理解打

自主的な取り組み
企画で採用

⇒ 異業種連携
推進

SDGsゴールと対応

⇒ 17ゴール対応
プロジェクト → 解決?

↓ 実績
新たな取り組み
新たな取り組み

新しい仕組み

視野を越えて連携
協賛
プロジェクト
（評価
システム）

② 活動
評価

交流 → 異なる視点の
獲得

語り手-活動者

行動 → 変化
と

変革
を

見直し
計画

③ 活動
「なぜ何を学ぶか?」
「誰が?」

ESDは学び

④ 自主性

↓

関係

10章-1

重視点に取次は事項
・会員による自拍の
取り組む推進

◎ ESDとSDGsの 関連性

行政の部局が
説明しよう
ESDとSDGsの
関係

アクション
目標 + 実行計画

次回
ふりかえり
10.2.4.1

(ESD・SDGs) + (体制)

建設的視点と共有

会員・活動の内容

協議会
把握している
開示していない

自拍の活動に
なぜ参加している?

理解していない
なぜ対策

誰が? どの? 何
具体的な部分を
明記

加えて → 4-4

期限
ルール
移行
標記
全体 → 分科会

4-4 = 作り方の
ルールを明確に

成立X
左Eの活動に
参加している

ESDとSDGs

◎ 中間支援

(相談支援
J-コンシェルジュ)

より自拍の
活動に

PRとPT
活動内容

開示
と開示方法
PR

実行計画
役割

明記

◎ 運営委員会

中間層 - 著者, 編集者
↓
広報活動

◎ 1-7

〇〇とSDGsはX

1-2 - ポストSDGs

↑
次期目標

◎ 7配点

重点項目の特徴
うかがい

大規模
会議
準備
実施
評価

深層理解
実践
評価

実践
評価
加えて

著者
所属

ESDとSDGsの
関係

ESDとSDGsの
関係

ESDとSDGsの
関係

ESDとSDGsの
関係

ESDとSDGsの
関係

ESDとSDGsの
関係

第1回 トークセッション板書③

4 成果と課題
普及・啓発・発信
成果

課題

ステークホルダー別取り組み
「地域初任者」
成果

ステークホルダー別取り組み
多様な教育場
成果

ステークホルダー別取り組み
企業
成果

ステークホルダー別取り組み
行政
成果

推進体制事務局
成果

推進体制事務局
課題

出前講座(町民向け)
⇒ ESD活動の
地域への普及
直接効果(効果)

ESDの理解↓
⇒ 学びの機会×
視点の増加×
ESDの「分り」に×
「関心」

ESD推進事業
⇒ 市民講座等
事業× ESD視点↑
ESDコーディネーター育成
⇒ コーディネーター⇒ 市民講座

市民講座
⇒ 協議会-大学
↓
コーディネーターの
活躍

環境関連企業
⇒ 研修
北九州市SDGsアワード
⇒ 企業部門理解(企業)
行動

職員研修
⇒ 研修
SDGs達成に
向け視点
北九州市SDGs推進計画

専属コーディネーター設置
⇒ 会員×地域
↓
活動↑ ⇒ 持続可能な
社会づくり

会員のコーディネート
不十分
⇒ 会員の主体的な活動
+
会員間ネットワーク

表彰制度(市民向け)
⇒ 活動の見える化
既存表彰
掘りおこし

協働連携↓
⇒ 他団体の活動内容が
分らない
協働方法が定まらない

ステークホルダー別取り組み
「地域初任者」
課題

国際会議の発表
⇒ 経験
↓
国際的ESD視点

ステークホルダー別取り組み
企業
課題

ステークホルダー別取り組み
行政
課題

RCE
⇒ ESD推進の実践拠点
- 全国RCE実務会議開催
- 韓国RCEとの交流
- 北九州市SDGs推進計画

プロジェクトの枠組み
⇒ 拡大に限界
↓
新しい枠組み検討

韓国RCEとの
継続的交流
⇒ 特徴的事業
10年以上続く

ESDの認知度→
⇒ ESDとSDGsの理解
周知(言葉+冊子取り)

視点を広げよう
⇒ 変化する視点(変化)
⇒ 高効率化
⇒ 次世代育成交流

ステークホルダー別取り組み
多様な教育場
課題

SDGsとESD
⇒ 連携強化
⇒ コース会員
⇒ 就職定住
活動の機会↑

行政組織での
ESD実践
⇒ 行政職員への
ESD/SDGsの意味
背景の研修が必要

視点のあり方
⇒ 社会情勢
⇒ 視点の意義の変化

小中学校との連携
事業化X
⇒ コースの活動
⇒ 新たな連携 ⇒ 次世代
育成

3/9 北九州ESD協議会

20名参加!!
10章-1
→ 協議会
→ 協議会

「批判的に見て
建設的に考え」
5年前の
アジェンダ

[前回の振り返り]

ESDとSDGsの関連性
4つが... 理解 対策
ESD → 「学び」 × 活動
自主的 ↔ アジェンダ
事業評価
活動
(異動点
変更 など)

9章 ESDとSDGsの関連性
協議会
「同」
他県に
も波及
してほしい!

運営体制
4-4と703以外

(1) 1-1と
1-2の中間
(4-4設計の
ルール・アジェンダ
企画・実施・精査
中間支援的役割
運営委員会 見直し
分前

(2) 1-1と
1-2の中間
組織 4-4と703以外
自治体間

2-2
→ 自治体間の連携
分析が必要
自治体間の
連携

事務局
継続
が必要

予算について
精査済(単年度)
→ 前年と同程度
4-4制(概算)
→ 新たな活動の仕方の
要望を提出
→ 現時点で確定できな
い

4-4制の仕組みが
若い人にも浸透した体制
既存の703以外の連携
事務局体制 - 5年継続
703以外 - 4-4並走
703以外に活用
自治体の活動に
参加する者が増える

4-4制に打ち出す...
地域活動の情報交換
703以外の情報交換
1-2 - 1-2同士の
交流の場
→ 2-2の積極的な
動き
定例的の情報交換会
703以外等

(703-1) 実習 - 単位(大学)
↑
2-2のあり方
2-2: 55才以上の
若年層
↑
地域定着のルール作り
取組の協力 = 若年
層世代 → 大学
向世代 (4-4制の
あり方)
① 2-2 主体性を持って
活動する

ESDとSDGsの
関連性について

視座の
相違
情報
の
共有
意識

共通
目標 ↔ 教育
持続可能な社会

具体的に
深めよう!

ESDの
価値
を
見出す

SDGs 2030年までの目標

↓ ESD 概念 教育 人材育成

2030年
後まで

ESDの
重要性
を
認識
する

- ESDの概念を深めよう
- ESDと関係するESDの種類を明らかにしよう
- ESDの概念を深めよう
- ESDの概念を深めよう
- ESDの概念を深めよう

ESDの概念を深めよう

人を育てよう
アライメントをどう実現する?
自分事として捉えよう
意識付け
ESD → 人材育成

小・中学校に
どのように取り入れる?
ESDの
具体的な
事例を
紹介しよう

小・中
出前講座
大のびな
ESDの
価値を
見出す

ESD 概念 SDGs 17-11

社会・環境・経済 ← 示した

育った人
価値が
ESDの
身近な
SDGsと
言葉が
結び
ついて

言葉
説明
SDGs
の
重要性

認識を
高めよう
高学年
実践
事例

ESDの
重要性
を
認識
する

ESD-SDGs
言葉
結び
ついて
体験
→ 理念
ESDの
重要性
を
認識
する

ESDの
重要性
を
認識
する
40代
以上
の人
材
育成
の
重要性